

中間報告	事業名	中学生が地域の大学生、保護者と交流するキャリア教育授業のモデル化		実施団体名	NPO法人だっぴ		事業番号	H27-
	岡山市(敬称略)	服部 道明 ・教育委員会事務局指導課 室長	永井 正博 ・教育委員会事務局指導課 指導副主査	安東 信哉 ・教育委員会生涯学習課 課長補佐			事業費	900,000
	団体責任者 役職名氏名(敬称略)	柏原 拓史 ・代表理事	河原 彩花 ・事務局スタッフ	連携団体	認定NPO法人カタリバ	NPO法人チャリティーサンタ岡山支部	補助金額	720,000
	記入者名						支出経費 9月末概算	

番号	体制・進捗の評価	当初の目標に対する 現在(平成27年9月30日)の状況	⇒ 現在の課題	⇒ 課題に対する今後の対策 (今年度中のいつまでに、何を、どのように行うか)
1	事業は、スケジュールに基づいて実施されていますか？	<p>【実施中学校】 岡山市立岡山中央中学校1校に決定し、準備を進めている。</p> <p>【事業運営における学生の参加促進と組織化】 予定通り</p> <p>【当日のプログラム作成】 予定通り</p> <p>【学校との調整】 予定通り</p> <p>【大学関係への広報と協力依頼大学生のキャストینگ】 懸念あり。 現時点で予定人数の3分の1程度(20~30名)の見込み。</p>	<p>●市教育委員会の有するネットワークとの連携と、大学関係機関への広報が十分に出来ていない。</p> <p>●大学生のキャストを残り3分の2(40名程度)集める必要がある。</p>	<p>●キャスト募集チラシを、岡山市生涯学習課主催の「学校支援ボランティア」の学生に周知。</p> <p>●岡山市教育委員会から、教育系や福祉系の大学の先生へ周知協力を依頼。</p> <p>●直接大学の先生を訪問し、事業紹介と実施依頼を行う。</p> <p>●教員志望の学生対象のメーリングリストへ情報提供。</p> <p>●講習を受ける大学生を通じて、キャスト募集情報の周知を行う。</p> <p>※2015年11月下旬時点で、 大学生キャストは目標人数に達した。 (2015/12/10追記)</p>
2	経費は、概ね予算どおりに執行されていますか？	<p>下記の通り、概ね予算通り執行している。</p> <p>●広報費(チラシ・ポスター作成) : 執行しない。</p> <p>●視察費(カタリバプログラム) : 執行済(増額あり)</p> <p>●啓発パンフレット作成費 : 執行予定。</p> <p>●委託費(講習会および助言) : 執行予定。</p> <p>●謝金 : 執行予定。</p>	<p>●広報費としてのHP作成費がやや不足(団体公式HP内に、「中学生だっぴ」の紹介・普及のため特設ページを設ける必要がある。)</p> <p>●大学生キャストへの飲み物提供等の経費が不足</p> <p>●視察費の増加</p>	<p>●チラシ、ポスター作成を行わずHP作成費に充てる。</p> <p>●謝金部分の減額によりHP作成費等に充てる。</p> <p>●今年度の成果をHPに反映することにより、県内中学校に対してモデル校での事例を可視化する。</p>
3	事業の進捗状況に関係機関等に発信し、積極的に連携を図っていますか？	<p>●大学機関へ、広報協力依頼などを実施</p> <p>●15/4/16に岡山市教育委員会が開催した「岡山キャリアスタートウィーク担当者会(市内中学校の、職場体験活動担当者の会)」において、だっぴの活動内容、中学生だっぴの事業等を紹介した。その結果、数校の担当者が興味を示した。</p> <p>●ESD市民協働推進センター発行「ツナガル通信」への掲載(15/7/17発行)等を通して、市民に対して取組を紹介。</p>	<p>●NPO法人だっぴのみの依頼では、協力承諾を得難い。</p> <p>●実施を希望する学校について、 ①学校規模 ②生徒数 ③立地条件等を考慮する必要がある。</p>	<p>●教育委員会からの依頼文等があると、学校での実施に繋がりが易い。</p> <p>●キャリアスタートウィーク事業との連携については、今年度中に、来年度の担当予定者への周知方法を検討する。</p> <p>●スタッフの確保とスキルアップ、保護者や地域との連携についても、今年度実施した学校の状況等から多様なスタイルを提案してほしい。</p>

	事業名	中学生が地域の大学生、保護者と交流する キャリア教育授業のモデル化	実施 団体名	NPO法人だっぴ	事業番号	H27-
4	団体と担当部署間で 事業目標を共有し、 次年度以降の展開 に向けて協議してい ますか？	具体的な協議は今後進めていく。		<ul style="list-style-type: none"> ●実施校の増加と、ニーズの多様化の可能性 ・今年度事業成果の検証、発信範囲やニーズ調査事業の展開次第では、実施希望校が大幅に増えることも想定される。実施可能数よりも増加した場合は、選定基準における懸念が発生する可能性もあり。 ・多様なニーズに応えるための、プログラム作成が必要。 ●開催する学校の選定 ・次年度の教育計画を立てる段階(今年度の11月～1月)で、本事業について中学校の担当者に検討いただけるような仕組みづくりが必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> ●実施校の増加と、ニーズの多様化の可能性 ・来年度はプログラム作成の時間短縮が望めるため、実施学校数増加は可能。 ●開催する学校の選定 ・各中学校への普及を図るため、1月16日当日の視察案内を市教委から行う。 ・来年度は3～5校での実施を想定。 ・1月16日の実施後、成果を各校のキャリア教育担当者へ周知。 ●実施団体と担当課との協議の場 次年度以降の展開について、協議する場を定期的に設ける。
番号	事業内容の評価	当初の目標に対する 現在(平成27年9月30日)の状況	⇒ 現在の課題		⇒ 課題に対する今後の対策 (今年度中のいつまでに、何を、どのように行うか)	
1	保護者(PTA協議会)との連携	<p>【目標】 教育委員会から中学生の親であるPTAに趣旨と目的を説明し、協力を依頼する。</p> <p>【現状】 学校、PTA、NPOの3者協議の場を設け、連携と実施に向けて同意を図っている。 ・PTAの反応は肯定的。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前回協議から時間が経過しているため、目標共有のための協議の場の再設定と、保護者へのアプローチが必要。 ●当日のプログラムにおいて、保護者にどの程度自己開示をして頂くべきか(開示して頂けるか)を検討する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ●11月中旬に改めて3者協議の場を設ける。 ●保護者には当日の開始前の集合をお願いし、運営側の視点を携えてプログラムに臨んで頂く。 	
2	大学生との連携	<p>【目標】 大学生60名の参加(メンター10～20名、その他40名)</p> <p>【現状】 予定人数の3分の1程度(20～30名)の応募あり</p>	残り3分の2(40名)の学生の募集と組織化が必要。		11月に大学教育関係者への直接的な協力依頼と学生募集を行う。 ※2015年11月下旬時点で、 大学生キャストは目標人数に達した。 (2015/12/10追記)	
3	周知広報 (実施校の決定)	<p>【目標】 市内1校以上の中学校にてモデルとなるプログラムを実施。</p> <p>【現状】 平成28年1月16日(土)中央中学校で実施予定。 ※平成27年度協働モデル事業が契機となり、平成27年10月23日(金)作東中学校で実施。 (2015/10/24追記)</p>	実施校と日時が決定したため、当日のプログラムを市内中学校の関係者に周知して次年度以降の多角的(モデルとしての)展開につなげていく必要がある。		調査事業を活用して市内38中学校へのヒアリングを行う。あわせて学年主任や職場体験担当教員に「だっぴ」の意義を伝え、1月16日(中央中学校)で実施するプログラムへの視察を促す。	

	事業名	中学生が地域の大学生、保護者と交流する キャリア教育授業のモデル化	実施 団体名	NPO法人だっぴ	事業番号	H27-
4	当日プログラムの企画	【目標】 中学生へのキャリア授業のモデルを示し、今後の教育現場での導入・展開を促す。 【現状】 ・認定NPO法人カタリバのプログラムを視察。 ・10月23日(作東中学校)の実施結果をふまえて1月16日のプログラムの改善を図る。	現時点ではプログラム企画における課題、不安はなし。			作東中学校で実施したプログラムの参加者評価を踏まえ、概ね同様のプログラムにより実施予定。
5	取り組み内容の普及啓発	【目標】 ・参加者の確保(中学生30~40名、保護者・PTA10~20名)。 ・報告書の作成とウェブサイトでの公開。 【現状】 ・FBページにて普及発信を行っている。	●参加者の確保については現時点で課題、不安はなし。 ●報告書については当日のアンケート結果を基に作成予定。ただし、ウェブサイト更新や報告書自体の広報のための費用捻出は不可。			●主に学校関係者を対象とした普及・啓発は報告書が完成次第、岡山市の協力を得て展開する。 ●主に不特定多数を対象とした普及・啓発はESD・市民協働推進センターの機関紙やフェイスブックとの連携により展開する。
番号	その他特記事項及びESD・市民協働推進センター等へのご要望	現 況		課 題		要望・対策 (案)
1						・広報計画・媒体の策定を支援する。 ・NPOと教育委員会との協働で、一般施策化が実現した事例を収集する。